

令和7年度 音楽科 授業改善推進プラン

大田区立池雪小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

【低学年】

- ・鍵盤ハーモニカの奏法では、階名唱の指導の後、指番号の指導を行ったことで、指使いを意識して演奏することができるようになった。
- ・同じ指導者(音楽講師)が鑑賞学習を指導したことにより、音楽の要素や仕組みについての学習を統一して行うことができた。

【中学年】

- ・リコーダー演奏については、学習の初期に個別に音色を確かめたことで、自分の演奏の音について判断することができるようになった。
- ・歌唱では歌詞等を手掛かりに学習を進め、曲想に興味をもって表現の工夫ができるようになった。

【高学年】

- ・ペアやグループの設定と学習の流れを工夫することにより、意欲的に音楽づくりの創作活動に取り組み、音楽の仕組みや要素について学習することができた。
- ・発声練習を通して和音の音の重なりを学習したことにより、美しいハーモニーを意識して歌唱できるようになった。

(2) 課題

【低学年】

- ・体幹が弱く正しい姿勢が保持できない。
- ・鍵盤ハーモニカの奏法では、指使いはよくできているが、息使い(タンギング)が苦手である。
- ・自分以外の相手の音を聴くことが難しい。

【中学年】

- ・体幹が弱く正しい姿勢が保持できない。
- ・リコーダー演奏で求められているよい音色についての意識には指導が繰り返し必要である。

【高学年】

- ・歌唱器楽とは別の鑑賞や音楽づくりの学習もあり、リコーダーを使用する楽曲に入るところには、指使いや息遣いを忘れてしまっている。
- ・声の美しい響きには意識があるが、旋律のまとまりや正しい音程をとる力が不足している面がある。

2 授業改善のポイント（観点別）

（1）低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・正しい姿勢の保持や口の開け方を意識させて、望ましい歌声で歌唱する。 ・鍵盤ハーモニカ演奏で、息使いを意識して演奏できるように指導する。 ・鍵盤ハーモニカの講習会等で技能を効率よく学ぶ。	・音楽を形づくっている要素（拍・反復など）を知って、意識して聴いたり演奏したりする。 ・自分以外の相手の音を聴く場面を設定し、学習を重ねる。	・楽しく活動する学習を続ける手立てとして、音楽づくり等で ICT を活用する。 ・音楽集会の歌などの楽曲を体験することで、様々な曲想に出会い楽しむ。

（2）中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・良い姿勢の保持が美しい演奏につながることを伝えて、実際に音の変化を体験させる。 ・リコーダーの基本奏法を習得するだけでなく、よりよい音を目指すために、自分の音をよく聴きながら繰り返し練習する。	・音楽を形づくっている要素を理解できたことを生かし、楽曲の中で具体的に理解を深め、曲を味わったり表現したりできるようにする。	・できた時の音色の変化を体感させ、より良い音への技能を意識して進んで取り組めるようにする。 ・音楽集会の歌など様々な曲想の楽曲を体験することで、ふさわしい表現への意欲を高める。

（3）高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・リズム唱や階名唱を十分に行い、旋律のまとまりや音程を意識させて演奏の技能を伸ばす。 ・声を重ねて合唱にするために、楽曲の要素を短時間の継続した練習で積み重ねる。 ・授業以外に日常的に声を出す時間（朝の会など）をつくる働きかけをする。	・友達との交流やワークシートを手掛かりに、音楽を聴いて感じたことと音楽の要素（強弱、音色等）との関わりを考える学習を行う。 ・学習のねらいに対する自分の向上や変化を表現する活動を積み重ねる。	・思いや意図を明確にもつことができる教材を選択する。 ・表現の場までの練習に見通しをもつことができるように、振り返り活動を行う。 ・ダイナミックな表現ができるように、音楽会の取り組みを通して、友達と合唱合奏する楽しさを味わわせる。